

事業所名

葛飾区子ども発達センター新小岩分室

支援プログラム

作成日

令和6年

12月

26日

| | | | | | | | |
|-----------|-----------------|--|----|-----|---------|---------|---|
| 法人（事業所）理念 | | 子ども一人一人を大切にし、子どもが喜びや幸せを感じながら、成長できることを目指す。 | | | | | |
| 支援方針 | | 「遊び」を通して、子どもの自尊心や主体性を育て、個々の成長に合わせた「生きる力」の基礎を培うための支援を行う。 | | | | | |
| 営業時間 | | 9時 | 0分 | 17時 | 0分 | 送迎実施の有無 | あり |
| 支 援 内 容 | | | | | | | |
| 本人支援 | 健康・生活 | <p>(1) 健康と生活リズムの維持</p> <p>① 連絡帳を通して、入眠時間と起床時間を確認する。また、当日の朝食時間や食欲の有無、排尿や排便を確認することで、児の健康状態を確認する。</p> <p>② 重症心身障害児や医療的ケアが必要な児に対しては、日々の健康状態の確認と処置を行う。安全に通園できるように、かかりつけ医と連携を取る。</p> <p>(2) 基本的な生活習慣の形成</p> <p>① はじまりの会やおわりの会を通して、一日の生活のリズムや生活習慣の形成を図る。</p> <p>② 通所時や帰りの支度は、イラストや文字を使い、それぞれのお子さんのペースで取り組めるように支援する。</p> <p>③ 生活の中で、様々な遊びを通して成長が促されるような環境を作る。</p> <p>④ 食事に対して、関心が高まるように、“触ってみる” “匂いを嗅いでみる” “食事の風景をしてみる”等の段階を踏んで支援する。</p> | | | | | |
| | 運動・感覚 | <p>(1) 運動・動作の経験</p> <p>① 日常生活に必要な全身を使った動作（歩く、走る、くぐる、またぐ、押す、引く、投げる等）を運動遊具を使いながら繰り返し経験できるように支援する。</p> <p>② 指先を使った細やかな動作の経験を積めるように支援する。（例：粘土、絵の具、描画、色水遊び等）</p> <p>(2) 感覚の遊びの興味・関心</p> <p>① 遊びを通して視覚・聴覚・固有覚等を十分感じられるように支援する。（例：絵本、パネルシアター、ブランコ、触れ合い遊び、トランポリン等）</p> | | | | | |
| | 認知・行動 | <p>(1) 認知の特性についての理解や対応</p> <p>① 自ら気づくことや、できることが増え、自ら行動できるように支援する。 （例：はじまりの会等の繰り返しの活動、発達段階に合わせた提示の仕方の工夫等）</p> | | | | | |
| | 言語 コミュニケーション | <p>(1) コミュニケーションへの意欲</p> <p>① 発達段階に合わせて表情やサイン、言葉を含めた豊かなコミュニケーションを育めるように支援する。（例：ごっこ遊び、表現遊び、ボール遊び等）</p> <p>② 職員や他児と様々な遊びを経験する中で、“楽しい” “嬉しい” “くやしい”等様々な感情を味わいながら関わる経験が積めるように支援する。 （例：ボウリング、電車ごっこ、箱積み、フルーツバスケット等）</p> | | | | | |
| | 人間関係 社会性 | <p>(1) 人と関わる心地よさの経験</p> <p>発達段階に応じて他者と関わる楽しさを育めるように支援する。（自由遊び、ごっこ遊び、ボール遊び、ルールのあるゲーム遊び等）</p> | | | | | |
| 家族支援 | | お子さんの課題や成長を家族と共有し、寄り添いあえる関係を構築する。（例：個別支援、アセスメント面談、確認面談、見学等） | | | 移行支援 | | 進路（幼稚園・保育園・小学校）に関する相談支援。 幼稚園・保育園・他施設との連携（アイリスシート等） |
| 地域支援・地域連携 | | 相談支援事業所との連携 必要に応じて、医療機関等、お子さんが関係する機関との連携 | | | 職員の質の向上 | | 外部の研修やOJT（虐待防止・事例検討・理学療法士や心理士、作業療法士、言語聴覚士、保育士等の専門職による相互研修）を計画立案し参加することで質の向上につなげる。 |
| 主な行事等 | | 近隣の散歩を通して、季節の花や風、自然に触れ合い、季節を感じる。 制作や絵本、遊びを通して、季節の行事に触れる。（こどもの日、梅雨、七夕、夏の水遊びや氷遊び、ハロウィン、クリスマス、正月、節分、ひなまつり等） 音楽療法等の親子活動 | | | | | |